



Photo by
Hiroshi Takasugi



“玉ねぎときゅうりの話”

園長 高杉 洋史

玉ねぎの話

半年前のことになります。もうすぐお正月を迎えるという12月下旬に夫婦して玉ねぎの苗を千本くらい植えました。長さが十数センチ、太さは2・3ミリというところでした。農業の師匠から株間は玉ねぎの出来上がりイメージして植えるように指導を受けていたのですが、細い苗のため間隔をあけると間が抜けた感じなのと、間隔を狭めたほうが早くたくさん植えられるので、師匠の言葉は頭ではわかつているものの、結果は密植状態になりました。

さて半年がたちました。立派な玉ねぎがたくさんできましたと言いたいところ、形がスマートなのです。縦長の玉ねぎ。窮屈で横に成長できない分、細身(小柄)に縦に成長しました。失敗はもう一点あります。師匠から程よい深さに植えるように教えられたのですが、ガラスに抜かれたり、風で飛んだりするので、つい深植えしました。その結果収穫時に畑から抜くのに苦労しました。

以上のことから教訓です。①その時は大丈夫と思っても、厳しい結果になることがある。②厳しい結果の原因は自分で作っている。③環境を整えることは大切である。



きゅうりの話

ドリカムタイムでキュウリ、ナス、ピーマンを植えました。その時キュウリの苗が1本折れてしまいました。まだ完全にちぎれてはいません。ドリカムタイムが終わり、片づけを手伝ってくれている先生に何気なく、折れたところを接着テープで固定したら生き返った話を聞いたことがあると、つい物知り顔で話しました。そうしたらキマジメなのか好奇心旺盛なのか実際に行動に移し、今ではすでに2本のキュウリを収穫するまでに育ちました。そのキュウリのプランターは命の恩人のものとだれもが認めています。もちろん水やり、虫取りなど特別にかわいがられています。こちらの話の教訓は、努力は報われる」です。

野菜作りや植物を育てることは子育てと似たところがあります。原因があり結果がある種を植えないと花は咲かない。努力すると結果として現れる。

玄関前の花壇のアジサイは去年植えたものですが、一年たつと一回りも二回りも大きくなり、存在感が上がりました。改良品種で多くの人の目を楽させています。ダンスパーティーという名前(商品名)です。玄関横の寄せ植えのプランターに小さな新種のアジサイが咲いています。今はほとんどの人に気づかれていません。名前はピーターパン。八重のピンクの花です。来年はたくさんの人に褒めてもらえるかもしれません。もし気づかれなくても植物は文句の一つも言わないところが偉い。でも人は褒められたいですね。大人は子どものいいところに気づく感性を磨きましよう。オシマイ。